

標準予防策 (Standard precautions)

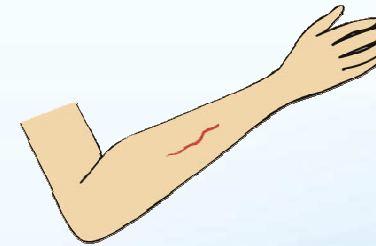
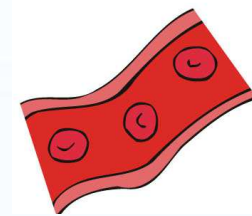
学習内容

1. 標準予防策の適応と目的
2. 標準予防策の概要

標準予防策とは？

全ての患者の

- 血液
- 汗を除く体液、分泌物、排泄物
- 健常でない皮膚
- 粘膜



は、感染性があるものとして対応すること

目的：病原体の感染・伝播リスクを減少させる

標準予防策の概要

- 手指衛生
- 個人防護具の使用
- 呼吸器衛生・咳エチケット
- 患者ケアに使用した器材・器具・機器の取り扱い
- 周辺環境整備およびリネンの取り扱い
- 患者配置
- 安全な注射手技
- 腰椎穿刺時の感染予防策
- 血液媒介病原体曝露防止

手指衛生(衛生的手洗い)のタイミング

患者に接触する前・後
清潔・無菌操作の前
次のものを取り扱った後



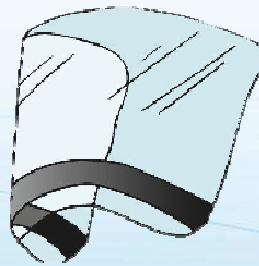
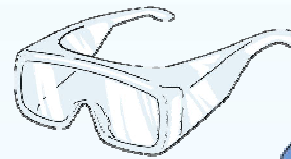
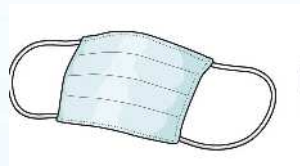
- 血液
- 全ての体液(汗を除く)・分泌物・排泄物
- 健常でない皮膚
- 粘膜

患者周辺環境に触れた後

個人用防護具

(Personal Protective Equipments: PPE)

- 手袋
- マスク
- エプロン
- ガウン
- ゴーグル
- フェイスシールド

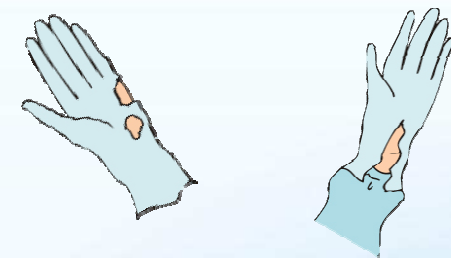


個人防護用具の着用場面

- 血液や体液、分泌物、排泄物、粘膜、健常ではない皮膚に接触する際に、状況に応じて個人防護用具を選択して使用する

手 袋

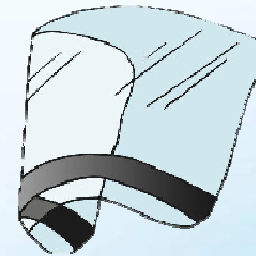
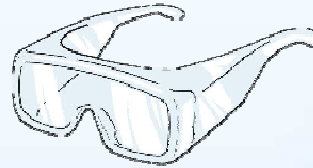
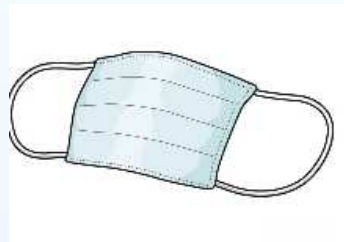
- 交換のタイミング
 - ・ ある患者の処置から別の患者の処置に移る前
 - ・ 同じ患者でも各処置ごとに
- 外すタイミング
 - ・ 使用直後
 - ・ 汚染されていない物品や環境表面に触れる前
- 手袋を外したら必ず手指衛生を行う
 - ・ 手袋を外すときに手を汚染することがある
 - ・ 手袋には微小な穴があいていることや使用中に破れることもある



マスク ゴーグル、フェイスシールド

- 着用の目的

眼や鼻、口の粘膜を防護するために使用



- 注意点

外すときに、汚染している表面に触れない

エプロンとガウン

- 着用の目的
 - ・ 衣服の汚染を防ぐ
 - ・ 血液や体液の曝露から医療従事者の皮膚・着衣を守る
- 注意点
 - ・ 防水性でなければならない
 - ・ 使用後、患者の部屋を離れる前に脱ぐ



呼吸器衛生・咳エチケット

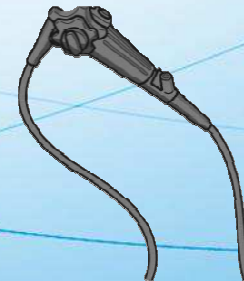
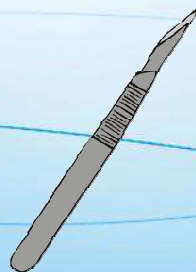
(外来や病院入口にポスターを掲示して啓発)

呼吸器感染の徴候がある患者に以下のことを実施してもらう

- 咳やくしゃみのときは、ティッシュペーパーで口と鼻を覆う
- 使用したティッシュペーパーはすぐに捨てる
- 呼吸器分泌物に触れた後には手指衛生を行う
- 可能な限りサージカルマスクを着用する

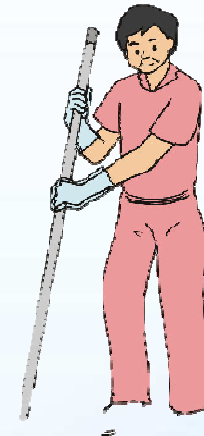
患者ケアに使用した 器材・器具・機器の取り扱い

- 血液や体液で汚染した器材・器具・機器は、皮膚や衣服、環境を汚染しないように取り扱う
- 再使用する器材類は、他の患者ケアに安全に使用できるように、適切な洗浄・消毒・滅菌を選択し再処理してから使用する



周辺環境整備および リネンの取り扱い

- 患者周辺の環境表面は、汚染や埃がないように清掃する
- 手がよく触れる環境表面は、その他の表面よりも頻繁に清掃する
- リネン類は汚染を広げないように取り扱う

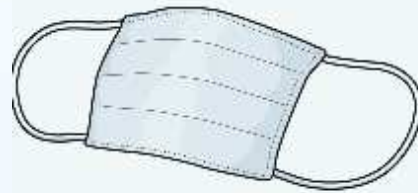


安全な注射手技

- 滅菌の単回使用の使い捨て注射針・注射器を用いる
- 注射器、注射針、輸液セット、輸液バッグ(ボトル)は、複数の患者に使用しない
- 単回量バイアルやアンプルを複数の患者に使用しない
- 複数回量バイアルに使用する針および注射器は滅菌されたものを用いる

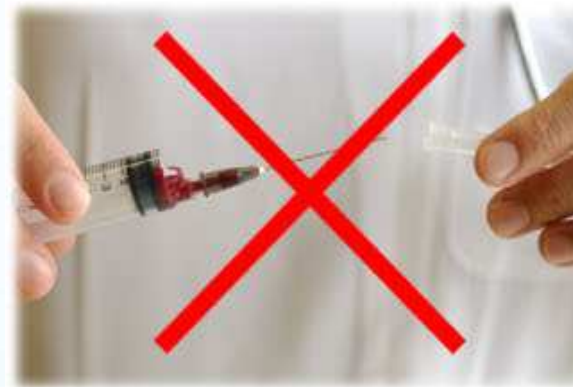
腰椎穿刺時の感染予防策

- 脊柱管や硬膜下腔にカテーテルを留置したり薬剤を注入するときにはサージカルマスクを着用する
- ミエログラム
- 腰椎穿刺
- 脊髄麻酔
- 硬膜外麻酔



血液媒介病原体曝露防止

- 注射針にリキャップしない



- 注射針や鋭利器材は、使用後直ちに耐貫通性の容器に廃棄する
- 安全器材を使用する
- 鋭利器材を取り扱う際には、手袋をつける
- 必要に応じて、個人防護用具を着用する



Q & A (1)

標準予防策は、感染徴候のある人に適応する基本的な感染対策であり、感染症が否定されれば中止してよい

YES

☐ NO

標準予防策はすべての人に適用する感染対策で患者の疾病や健康状態により中止できるものではない

Q & A (2)

手袋をしていても、手袋を外した後に手指衛生を実施する

☒ YES

☐ NO

手袋をしていても、手袋には微小な穴があいていたり、手袋を外す際に汚染するので、手袋を外した後も手指衛生が必要である

Q & A (3)

同じ患者さんであれば、手袋交換は不要である

YES

☐ NO

同じ患者であっても、汚染部位から清潔部位に移動する時や、手袋が血液や体液で汚染した場合は、適宜交換する

Q & A (4)

手袋やガウンなどの個人防護用具は、患者の部屋(エリア)から退室前に外して廃棄する

☒ YES

☐ NO

汚染を病室外に拡散させないために、処置やケア時に着用した防護用具は、その患者さんの病室(エリア)を出る前に外す

Q & A (5)

呼吸器衛生・咳エチケットの実施は、インフルエンザや風邪などの呼吸器感染症の流行期のみ実施する

YES

☐ NO

呼吸器衛生・咳エチケットは、インフルエンザなどの呼吸器感染症が流行している時期のみではなく、通年、咳やくしゃみなどの症状がある人には実施してもらうことが重要である

参考文献

- Guideline for Isolation Precautions : Preventing Transmission of Infectious Agents in Healthcare Settings 2007.
<http://www.cdc.gov/ncidod/dhqp/pdf/guidelines/Isolation2007.pdf>
- 国公立大学附属病院感染対策協議会, 病院感染対策ガイドライン 改訂版. 株式会社じほう, 2012.
- 洪愛子編, 院内感染必須ハンドブック 第2版. 中央法規出版株式会社, 2013.